



NEWSLETTER

保育・子育て総合研究機構だより

2014. 3.1 発行 NO.30

公益社団法人全国私立保育園連盟 保育・子育て総合研究機構研究企画委員会

報告1

『わく ワーク シート1-1』からの学び in 沖縄 …子ども理解のおもしろさの共有

保育園では、日々、子どもたちとの暮らしにおいて、いろいろな場面に出会います。保育者はそれぞれアンテナを張り巡らせながら、子どもたちの「いま・ここ」から発せられるサインを読み取ろうとします。そして、子どもたちとの「いま・ここ」が豊かな場になるように保育をデザインしていきます。

保育現場は、常に「子どもとの出会い」が繰り返される場所です。保育者が「子どもとの出会い」の物語を語ることで、子ども理解を深めることは、保育の質を高めることにつながります。子どもを語り合うことで、保育者自身が何を考えているのか、何を見落としているのかがわかってくるし、自身の考えというものがあるままとまってくるのではないのでしょうか。

全私保連保育・子育て総合研究機構研究企画委員会の『わく ワーク シート』プロジェクトチームは、保育の日常の中から一場面の子どもの姿を紹介しながら、子ども理解を深めてほしい、実践のおもしろさを知ってほしい、体験してほしいという想いで、『わく ワーク シート』の発行に取り組んでいます。

「ニューズレター」No.29でもお知らせしましたが、これまでに、シリーズ1「こどもとであう」(1-1~1-3)、シリーズ2「こどもとみる」(2-1)を発行してきました。この「ニューズレター」とともに、「こどもとみる」シリーズの2-2がお手元に届くことになります。

この「ワーク シート」を使ってシートの中の子どもにも出会い、そこで語り合い、学び合うことで、必然的に自分たちの保育園の子どもに気持ちが傾いていくのは、誰もが実感することでしょう。

各地域でこの「ワーク シート」を用いた研修会はいくつか催されたと思いますが、沖縄に於いても、1-1を使っての研修を、昨年6月に名護市(北部)にて、9月に沖縄市(中部)にて、2回にわたり行いました。いずれも複数園による合同研修会で、講師&ファシリテーターとして、当研究企画委員会委員でもあられる

立教女学院短期大学准教授の森眞理先生にかかわっていただきました。

今回は、名護市での北部ブロック研修会の模様を報告させていただきます。

■子どもの育ちと学びの分かち合い(北部ブロック)

…『わく ワーク シート』との出会い

日時 2013(平成25)年6月29日14時~17時

参加人数 116名

(施設長、主任をはじめ、保育者、職員)

★グループ討議を通して

「どうしても、はきたいの!」(ゆは・1歳6か月)

靴に興味を持った“ゆはちゃん”が自ら試行錯誤を繰り返しながら悪戦苦闘をする姿の写真から、“ゆはちゃん”の気持ちになってそれぞれの思いをグループで発表しました。

6人前後のグループが15グループできて、まず、グループの名前を決めることから始めました。

写真を読み取り、吹き出しに書き込んだセリフを“ゆはちゃん”になりきって語り、演じる参加者の姿は、とても熱いものがありました。いろいろな“ゆはちゃん”の物語があり、物語のタイトルもさまざまでした。いつまでも語り続けていたい、まだまだ語り合いたい、そんな雰囲気の間で会場でした。

★参加者の感想

《発見・気づき》

●『わく ワーク シート』を活用し、子どもの姿(写真)を見て読み取ろうとすることで、いろんな視点や気づきがあった。子どもの集中度や心の動き、保育者としての想いや、子どもの発達をいいように見ようとする「心」のゆとりなどにつながるような気がした。

●写真のそばにある吹き出しに、自分の思いを文章にすることで物語をつくっているような手法がおもしろ

く、子どもへの気づきやとらえ方の幅が広がった。

●写真を見て、まず自分の思いや考えを整理してグループ間で話し合い、他者の意見を聴くことで、自分では気づくことのできなかった部分を知ることができたとし、同じように他者への気づきにもなった。

●『わく ワーク シート』を見て、グループでのディスカッションを通し、他者の想いを受けとめる、分かち合おうとする意識が高まり、保育園でも今以上に「子どもを語り合う、保育を語り合う」場づくりが求められるのだらうと感じた。

●子どもの行動一つひとつに意味があり、心の動きを見よう（見つめよう）とする保育者としての大切なかわり（寄り添い）を再確認（気づく）することにつながった。

●子どもに何か（活動）をさせなければいけないという、保育士主体になりがちな部分に気づかされ、子どもは自分の力で環境に働きかける力があると再確認させられた。

●写真の子どもに「ゆはちゃん」と名前があったので親近感がわきやすく、考えやすかった。

●子どもや保育を語り合うことの中で、ベテランとか経験が長いとか浅いとか関係なく、語り合うことの素晴らしさを感じた。

●『わく ワーク シート』を使って話し合うことも大切だと思いつつ同時に、思いを文章にする（書く・記録）ことも大切な部分だと思った。

●子どもの姿が見えているようで、「見えていない」ことがあると気づかされた。

●森先生が教えてくださった「三面鏡の視点」（4ページ参照）を意識することで、（保育者どうし）視点が広がり、今まで自分が考えることができなかったような、子どもの視点へとつながった。

●研修会の前半に森先生の講義があったので、今までにない保育のまなざしを意識することができ、『わく ワーク シート』へのディスカッションも弾んだような気がした。

●実際に子どもの写真を使うことで研修のあり方や内容が異なることを体験し、とても勉強になった。

●『わく ワーク シート』を活用して、みんなでさまざまな想いや角度から「子どもへの理解をどのように深めて」いくかが、「保育の資質向上」になるのだらうと思った。



●よく「主体性」というが、子どもの主体性を改めて考える機会となった。子ども自身が、今「この瞬間」を自分（子ども）なりに働きかけて（頑張って）いるんだという視点が出てきた。

●ある意味で自分が「保育を語る」姿勢がないと、保育の資質向上につながらないと感じた。

《むずかしさ》

●相手の気持ちや意見を受けとめることのむずかしさを感じる部分がある。一人ひとり保育観に違いがあるということを知っていても、他者の想いや意見に対して「違うよね」と否定的な視点でとらえていることがある。

《今後》

●今回の『わく ワーク シート』を保育園でも真似て、自園なりに園内研修などで取り組んでいきたい。

●園独自の「〇〇オリジナル・わく ワーク シート」でグループ討議ができればと思った。

★違いをチャンブルーし、想いをグーする時へ

…「参加者の声・声」より

以前から「保育を語り合う」研修があることだけは知っていて、「保育を語り合うって何だろう」という興味・関心があり、期待を持ってこの研修会に参加しました。

森先生から、「自分の保育園のことを語れますか？それが専門性につながることもなるのです」と聞かされた時には「ドキッ」としました。今まで参加してきた研修と違う「何か」が、私の中で大きくなっていくような感じを受けました。

『わく ワーク シート』を実際に活用する上で、「5～6名でグループをつくりましょう。できるだけ違う保育園の職員どうしてグループをつくってください」



との説明に、不安とワクワク感を感じました。初めて出会う他園の、保育経験年数や立場が異なる保育者とグループをつくりました。司会進行、記録、発表者が決まり、グループディスカッションが始まりました。

シートの6枚の写真を見て、子どもがどんなことを考えているか、感じているかを、写真のそばの吹き出しに、まずは自分なりに書いてみました。その後、子どもの姿(写真)を見て、自分なりに感じたことを一人ひとり発表していく中で、写真1枚とってもいろいろな考え方や感じ方(とらえ方)が見られました。タイトル一つとってもまったく違うということがとてもおもしろく、さまざまな新発見がありました。たった1枚の子どもの写真から、「子どもの育ち(学び)」があると気づかされました。

自分の保育を振り返り、見つめ直すことで、子どもの育ち(学び)、発達を見落としていたのではとの気づきにもなりました。そして、グループ(みんな)でディスカッションすることで、自分では気づくことのできなかつたことがたくさんあり、その違いがとてもおもしろく感じられ、今までにない不思議な感覚がありました。

その不思議な感覚は、他者の考えや意見を聴く(受け入れる)ことで、同じモノを見ても、これまでの経



験や体験、環境の違いで、感性(保育観)が「違う(異なる)」保育の視点が違ってくるのだと考えさせられました。

私の中で、「違う」の考え方はマイナス的イメージ、不安のようなものが保育を行う中で多少ありました。このシート「こどもとであう」を保育者どうしで語り合うことで、子ども一人ひとり、人格も違うし、同じように子どもとかかわる保育者一人ひとりも保育観(人格)が同じではないことを受けとめ、そこで保育者の意見や想いの「違い(異なる)」という部分が上手くチャンプルー(交ざり合う)され、子どもの育ちを育む保育環境につながる大切な学びの場となっていくのだろうと改めて考えさせられる、感動の多い有意義な研修会でした。

今回の「子どもの育ちと学びの分かち合い」で私が学んだのは、「子どもの姿(保育)をともに語り合う」素晴らしさと楽しさでした。自分の意見・想いを他者とグー(仲間になる)させながら、「語り合う風土(習慣)」を育み、自分の保育園を自信をもって語れる保育者を目指し、みんなで子どもの笑顔を育てていけるよう、今回の学びをこれからの保育にいかしていきたいと思います。

(當間左知子●沖縄・パンダ保育園園長)

報告2 『わく ワーク シート 1-1』 からの学び in 沖縄との対話

「質の高い保育を！」と、私たち保育に携わる者は、留意して日々実践しています。しかしながら、質を語るのは容易なことではありません。設備や安全性、教材や遊具など、物質的なことは語られやすいのですが、保育の本質である子どものこととなると？「〇〇をし

た」「〇〇ができた」と、コトや結果・成果重視の言説に偏りがちです。

そうした中、「『ともに生活している子どもの姿をいかに丁寧に語れるか』が保育の質の高さを考えるバロメーター(指標)！」と位置づけて、沖縄県では2011(平

成23)年より、『子どもの育ちと学びの分かち合い』への招き」として、「子どもに丁寧に会い、語り合い、保育を高め合おう」と、「つむぐの会」(伝え合って、向き合って、ゲー [沖縄の言葉で“仲間になろう”の意])の学びを重ね、現在通算10回を数えています。北部ブロック研修会参加者の声から示唆が与えられたことを、一緒に考えてみることにします。

◆子どもとの出会いと学びを再考する

「おはようございます！」保育園の一日が始まります。そこで保育者は、子どもの声、表情や身体の動きに体調や心情を読み取り、今日一日どうあったらこの子にとって幸せか、と思い巡らします。

ところが、ついついその日の生活の流れや活動に気がとられ、子ども一人ひとりの遊びや生活にどのような学びがあったのか、表情にどのような子どもの声が表れていたのか、「子どもとの出会い」が置き去りにされてしまいがちなのでは…。

『わく ワーク シート』による学び合いは、「子どもの行動一つひとつに意味があり／子どもは自分の力で環境に働きかける力があると再確認」といった参加者の振り返りからは、自園の子どもとの出会いと、生活と遊びにある学びを大切にしようという意識改革につながっていることが伝わってきます。「出会いは、人生を変えるもの／新しい価値を与えるもの」と、イタリアのレッジョ・エミリア市幼児学校アトリエリスタ(芸術士)のステファノ・ストローニさんは語られました。子どもの発見や驚きに対して感性豊かな保育者になり、日々の生活における子どもとの出会いと学びのとらえ方を再考し、子ども理解を深めましょう。

◆「共異体と共同体」を大切に

「違っていい」と言葉にしますが、いざその場面にいくと不安になる、と参加者の声に明確に表れています。そこで、『わく ワーク シート』の出番です！

ある参加者は、『『こどもとであう』を保育者どうしで語り合うことで、子ども一人ひとり、人格も違うし、同じように子どもとかかわる保育者一人ひとりも保育観(人格)が同じではないことを受けとめ、そこで保育者の意見や想いの『違い(異なる)』という部分が上手くチャンプルー(交ざり合う)され、子どもの育ちを育む保育環境につながる大切な学びの場となって

いく」と記しています。実感のこもる言葉です。

私は、子ども理解には「三面鏡(望遠鏡:概観する／万華鏡:多面的に見る／顕微鏡:微細を見る)の視点」を大切に考えています。独り善がりではなく、一人の子どもを多面的に見ることが、その子の奥深さ(理解)に表れてくるのです。

自分が見えないことは「恥」や「劣」ではなく、自分以外の人(異体)がともに居てくれること(共異体)が、保育園という生活コミュニティ(共同体)を活性化する源になることをこの『シート』の学び合いが気づかせてくれるのです。

◆持続可能へと

「文化や言葉を育てるには時間が必要です。時間にかけて本を読み、じっくりと考える。こうした習慣が急速に失われています。…多くの人が考えなくなり、考えている人を尊敬する気持ちも失われた。…」(「耕論:はまる?自己啓発」/朝日新聞2014年2月6日朝刊17面)と、東浩紀氏(思想家)は現代人の生き方に警鐘を鳴らしています。

学びの会がなくて…ではなく、クラスで、園内で、気の合う仲間とともに始めてみませんか。少しずつ、少しずつ、子どもが成人する時に希望をもって、今の子どもを語り合うコミュニティを形成していきたいものです。

(森 眞理●立教女学院短期大学准教授)

編集後記

◎語り合いの質(深み)への有意義な示唆

保育者の資質向上論議が、有識者を中心に、個人的をあてて検討されている寂しい実態がある。

子どもの育ちが個体の発達から関係性にシフトされているように、保育者集団が日々の子どもの姿を語り合うことから生まれる気づきと相互理解が資質向上に大きく寄与する。となると、語り合いの質(深み)が課題になる。今回の『本編』は、語り合いの質について有意義な示唆を与えていると思われる。ぜひ活用を！

(片山喜章●神戸市・はっと保育園園長)

◆問合せ

公益社団法人全国私立保育園連盟
保育・子育て総合研究機構研究企画委員会
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10
TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879
URL <http://www.zenshihoren.or.jp>
E-mail ans@zenshihoren.or.jp